

現代社会の諸問題における授業研究

教育学部教育心理学教室・相模健人

1. はじめに

本稿では筆者が共通教育で担当した「現代社会の諸問題」において、独自に行った授業評価を報告し、よりよい共通教育における授業を考えたい。

2. 授業内容

授業題目：身近に考える臨床心理

担当教員名：相模 健人

対象学生：知の展開 B 科目帯（人文一、教育学部一、看護学科一、工学部一）

開講時期：2007 年度 後学期

受講生：60 名

授業の目的： 現代における様々な「こころの問題」を、学生にとって身近な映画や音楽、お笑い番組などを例に取りながら、解説し、臨床心理学の理解を深める。

授業の到達目標： 臨床心理学で扱うこころの問題、それを理解するために必要な概念、その援助のために必要な技法を説明できる。

授業内容

第 1 回 ガイダンス

受講学生の抽選、ガイダンスを行う。

第 2 回 ジョン・レノン「マザー」からマターナル・ディプレッションを考える

教材としてジョン・レノンの音楽を用いた。

第 3 回 エミネムのラップから児童虐待を考える

教材としてエミネムのプロモーションビデオを用いた。

第 4 回 映画「ユリイカ」からトラウマを考える その 1

教材として映画「ユリイカ」を用いた。

第 5 回 映画「ユリイカ」からトラウマを考える その 2

前回は引き続き、教材として映画「ユリイカ」を用いた。

第 6 回 中村一義「金字塔」からひきこもりからの脱出を考える

教材として中村一義の音楽を用いた。

第 7 回 スピッツの歌詞からフロイトを考える

教材としてスピッツの音楽を用いた。

第 8 回 向井秀徳の歌詞からユングを考える

教材として向井秀徳のプロモーションビデオを用いた。

第 9 回 映画「GO」から自我同一性を考える

教材として映画「GO」を用いた。

第 10 回 映画「私の中のもう一人の私」から中年危機を考える

教材として映画「私の中のもう一人の私」を用いた。

第 11 回 「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで」におけるフリートークから知らない姿勢を考える

教材としてDVD「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで」を用いた。

第 12 回 「水曜どうでしょう」から解決志向アプローチの中心哲学を考える

教材としてDVD「水曜どうでしょう」を用いた。

第 13 回 映画「ライフイズビューティフル」から問題の外在化を考える

教材として映画「ライフイズビューティフル」を用いた。

第 14 回 試験

筆者が急病のため、1 回休講し、全 14 回の授業とした。

授業方法：プレゼンテーションを中心とした講義を行っている。教材として音楽、映画、お笑い番組を授業内で提示し、それをもとに討論、ワークなどの小グループ活動を毎回行った。各教材はあくまで素材としてのため、映画、お笑い番組などは選択した数シーンしか授業内で見せていない。試験については授業内で教えた知識を問う記述試験を行っている。

3. 授業評価について

本稿では筆者が独自に授業評価を行っている。各授業時間の開始時に「授業評価シート」を配り、学生に授業評価を行ってもらった。「授業評価シート」は出席、遅刻票の役割をかねており、学生に記入することを義務付けた。ゆえに記名式

である。ただし出席、遅刻の別以外は学生の成績評価には全く使用していないし、そのことを学生に周知している。

「授業評価シート」は3つの質問で構成されている。質問1は「今日の授業は1を『わからない』、10を『わかりやすい』とするといくつでしたか？数字で答えてください」であり、数値で答えてもらった。質問2は「今日の授業はどんなところがよかったから、質問1の答えの数になったと思いますか？」、質問3は「来週の授業で少しよくなって、質問1の答えより1上がったとしたらどんな授業になっていると思いますか？」であり、学生に自由に記述してもらった。その他として質問欄を別にもうけている。毎回の平均、代表的な感想と質問への回答を、次回の講義でプリントとして配っている。

この授業評価を第2回から第13回講義においておこなった。また第13回講義に最終授業評価として、同様の質問を授業全体について行っている。

4. 結果

Table に第2回講義から最終授業評価にいたる授業評価の平均、標準偏差、出席人数を示している。

試験は57名が受験し、平均が71.61点であった。

5. 考察

授業評価の全体を通しての平均が7.67であり、おおむね評価は高いといえよう。また試験の平均も71.61点で、学生が授業内容についてよく理解していると考えられる。

では、どのような授業に改善が必要であり、またどのような授業に理解が深まったかを考えて生きたい。

授業評価の平均として低いのは第8回、第10回講義である。それぞれ、5.83,6.96と平均を大きく下回っている。この両方の回がユングの心理学、その中でも中年危機とユングの唱えた理論を取り扱っている。ユングの理論については難解なところも多く、より分かりやすい授業が求められると言えよう。

「授業評価シート」の感想でも「ウロボロスのところが分かりにくかった」(第8回)と元型などの概念的な内容は理解できておらず、これについては音楽などよりも、映画など物語を伴ったものの教材の方が理解しやすいのではないかと推測する。

また第10回講義も中年危機を扱ったところ、「自分にあてはめて考えにくかった」との感想もあり、共通教育ではより分かりやすい授業内容が求められると考える。

逆に授業評価が高かったのは、第11~13回講義であり、いずれも8を超えている。感想も「普段見ている番組からこんなことを考えもしなかった」(第11回)という意外性を感じているものがあったり、「問題が起きたときに原因を考えていたが、別の新しいことをやってみればいいのだと思った」(第12回)や、「考え方次第で問題も乗り切っていけると分かった」(第13回)などといった理解が進んでいるものが多くみられた。

学生にとって身近なお笑い番組を例にとっていることと、学生にとっては意外な形で授業が進行したこと、またカウンセリングに直接関係する授業内容であることが学生に授業理解を促したと考えられる。

6. おわりに

以上のように、学生にとって身近な映画や音楽、お笑い番組などを例に取って、学生にとってこれまでと違う視点から解説し、それにより臨床心理学の理解を深める形式の授業は学生に受け入れられたようである。

今後、共通教育において、多彩な授業を展開することで、学生の理解を図りたい。

Table 授業評価の結果

授業回	平均	標準偏差	出席人数
第2回	7.98	1.49	59
第3回	7.52	1.51	56
第4回	7.82	1.48	56
第5回	7.71	1.29	56
第6回	7.67	1.79	55
第7回	7.70	1.83	50
第8回	5.83	1.88	50
第9回	7.25	1.63	52
第10回	6.96	1.99	54
第11回	8.20	1.90	50
第12回	8.68	1.42	51
第13回	8.28	1.52	54
最終授業評価	8.13	1.19	54
平均	7.67	1.61	53.62